

校友の 歴史の重さ 手渡して 頼むぞ後輩 母校の未来 伝統を 守ってゆきます 我々も 富士見・浜浦 熱き心で

校友会・歯学会入会オリエンテーション開催!

新潟生命歯学部



生命歯学部



生命歯学部では11月14日(木)に新潟生命歯学部では12月6日(金)に、第6学年の学生さんを対象に校友会・歯学会入会オリエンテーションを開催いたしました。出席された6年生の皆様には、校友会・歯学会の先生方の説明に熱心に耳を傾けていただきました。

六年間、同じ学窓で学んだ仲間であっても、皆様は卒業と同時にそれぞれの道を歩み始めることとなります。しかし皆様は、歴史と伝統ある日本歯科大学の同じ卒回の卒業生となり、日本歯科大学校友会と歯学会に入会することができるのです。校友会・歯学会は、卒業後の皆様が一人になっても困り、悩むことのないように、多岐に亘る充実したサポートを卒業後の皆様に提供してまいりました。

ほんの一例ですが、校友会は長期疾病・災害・休業などの見舞金や、死亡共済金などの福祉共済制度と傷病休院時の会員診療所への代診派遣制度を、また歯学会は地区歯学研修会や各地区校友会主催の総会・学術講演会への講師派遣制度を卒業後の皆様のために整備しています。

また、歯科医師にとって、卒後も最新の知識・技術を習得するために、

生涯研修・学習が必需不可欠であることは言うまでもありません。校友会・歯学会はポストグラデュエート・コース、セミナー、学術雑誌、会報等を通じて、会員の皆様のために充実した生涯研修・学術の場も提供しています。

卒業の暁には、ぜひ校友会・歯学会に入会していただくことを、心から皆様にお勧めいたします。



校友君メモ

歯学会って?

歯学会とは歯学学術の発展と本学の発展に寄与することを目的とした学術団体です。

本学教職員、大学院学生、校友会会員等から構成されています。歯学会は各都道府県校友会の総会・学術講演会に講師を派遣しています。また、年2回歯学研修会を開催しています。

校友会からのご挨拶 創立者 中原市五郎先生

藤井 重壽 副会長(62回)



校友会本部では現在、創立者伝記編集委員会を立ち上げ大学側の協力のもと、本年(2014年)6月発刊を目標に作業を進めています。

中原市五郎先生の多方面にわたる足跡、業績を年代も含めてその時代に存在する証拠をもとに再度綿密に考証するもので、既刊の伝記本とは異なります。

委員会では7名の委員が市五郎先生の業績のそれぞれの分野の執筆を担当します。私の分担は「発明と実用新案」の中の「咬合器関連」となりました。

先生は発明特許13件(1893~1934)、実用新案8件(1915~1927)、そして米国で2件(1918・1920)の特許をとられており、この度そのすべての特許明細書が明らかになりました。

咬合器に関しては「発明の端緒は1914年(大正3)に始まり…」との著述があり(ちょうど今年は百年目になります)、1916年(大正5)から1934年(昭和9)までに4件の特許を取得、顔弓に関しては1920年(大正9)に実用新案に登録されています。

以上の業績の裏付けとなる“中原式咬合採得器・中原式咬合器、理論並びに使用法”1918年(大正7)なる著書が最近学内から発見されました。この著書が96年も前に書かれたことを考えると、学術的観点からも、驚くと同時に著者に畏敬の念を禁じえません。

発刊されたあかつきには、是非ともすべての在校生に図書館で目を通していただきたいと思います。

日本歯科大学校友会主催 女性の会 スタディーコース開催

小児歯科医療：What's New ?
——リスクに応じた疾患予防プログラム——



女性の会スタディーコースは、臨床を離れていた先生方の仕事復帰をサポートすることを目的に開催されています



講演していただいた苅部教授

日時 平成25年9月29日(日)

会場 日本歯科大学生命歯学部
100周年記念会館

担当 日本歯科大学生命歯学部
小児歯科学講座

女性の会スタディーコースに参加して

9月29日、母校での講義は学生時代に
戻ったような懐かしい気持ちと、
初めてお会いした校友の諸先生方との不
思議な一体感の中でスタート
しました。

今回の小児歯科スタ
ディーコースは、明日から
の診療の一助となるもの
でした。



う蝕評価システムは診療体制をスッキ
リとまとめてくれるものであり、スタッ
フ・患者さんとともに治療、予防への足
並みを揃えることができそうです。新材
料の情報も有難く、また若年者の顎関節
症についても基本的診査・手技の講義を
受け、生活面でのアドバイス など診療
の幅を広げることができそうです。

若い後輩先生方の講義を受けることは
嬉しくもあり、誇らしくもあり！ 充実
した一日に感謝しつつ帰路につきました。
島根県の無歯科医村(現在は合併し松

江市)に医院を開業して27年。院長であ
る主人(日歯大同級生)とともに、場所と
機会があれば可能な限り出向いては歯の
大切さを訴え続けてまいりました。

これまでの歩みの中心には 学生時代
に吸収した知識、技術、そして多くの友
の存在があったことは言うまでもありま
せん。

学生の皆さん 今を大切に！ 人との
繋がりを大切に！

野坂 房子(66回)

卒業しても日々勉強！

スタディーコースの参加は初めてで
したが、20名の少人数制で、講義
の間に実習が入り、お昼は豪華なお弁当
が配られ、さらにはコーヒブレイク付
きの、とても有意義で満足な1日でした。
講義は3本立てで、小児歯科講座の名生
幸恵先生、島津 貴咲先生、苅部 洋行教
授によりそれぞれのテーマで講演してい
ただきました。

唾液検査などの結果から、患者さん個々
のリスク評価を行い、オーダーメイドの
予防システムを作り上げる…。重要とは
分かっている、なかなか実践に移せま
せんでしたが、本講演をきっかけに一歩
踏み出さなければ、と改めて感じさせら
れました。また、優れた最新のシーラ
ント材料についても教えていただき、明日
からの臨床にとても役立つ内容でした。

大学を卒業し、歯科医師になっても
日々が勉強です。大学時代に学んだ基礎

があつてこそ、今の臨床に活かせること
ができます。また卒業後は、校友会の先
生方と親睦を深めながら、懐かしい校舎
で最新講義を受講することができます！
校友会からはこのような素晴らしい機会
を、たくさん提供していた
だけののです。学生の皆
さんもぜひ、校友会に注
目してみてくださいね!!

池田 聡子(95回)





盛り上がった第58回富士見祭! Link

私は今年度富士見祭実行委員長として、今まで繋いできた伝統を大切にしたいと、さらにより良い富士見祭をつくりたいと考えました。そのためには私の力だけでなく、先生方、学生会会員、先輩方、そして各部活の仲間など、いろいろな方々のご協力がなければなりません。また富士見祭という伝統を来年そしてまた来年と後輩たちに繋いでいくことも委員長としての大切な使命だと思います。そこで私は、繋がりを大切にしようという意味を込めて「Link」を今年度富士見祭のテーマに決定しました。

富士見祭当日は、ちょい足し、クイズ、ビンゴ、女装コンテストと、どの企画もとても盛り上がっていました。特に、ビンゴでは豪華な景品が数多くあり、皆ビンゴカードを持つ手に熱が入っていました。模擬店も多く出店され、大盛況でした。学術部の方々は自分の作品やポスター等、日々の活動の成果を展示していました。今年のトークショーでは元SDN48の芹那さんが、以前演じた歯科衛生士役のお話などで会場を盛り上げてくださいました。

今年度の富士見祭を無事終える事ができたのは、富士見祭に関わってくださったすべての方々のお陰だと思っています。今回の富士見祭を通じて、「繋がり」の大切さを、またお祝いをいただいた校友会との「繋がり」=「Link」も再確認することができたと感じました。このような貴重な経験をさせていただき、本当に感謝いたします。ありがとうございました。

富士見祭実行委員長 堀貫 浩市(4年)



ご挨拶される中原理事長・学長



誠和会

ご協力して下さった
皆様に感謝しております。



校友会と在校生を繋ぐ懇親会開催！

都道府県校友会は、在校生との懇親会を開催しています。ぜひ参加して、地元の校友会の先輩達と懇親を深めてみませんか？

千葉県人会

平成25年6月19日(水)に、「千葉県人会」が飯田橋で開催されました。在校生12名、千葉県校友会の先生方5名、学内の先生方7名が参加されました。病院長に就任された三代冬彦先生へのお祝いの花束贈呈

もあり、また千葉県の話から部活にいたるまで様々な会話に花が咲きました。学生と校友会の先生方、大学の先生方との交流を深めた意義のある会となりました。

肱黒和子・生命歯学部5年

広島県人会

平成25年8月17日(土)に、「第2回広島県校友会在校生との懇親会」が広島県で開催されました。在校生17名、広島県校友会の先生方7名が参加されました。校友会会員、在校生の自己紹介があり、昔話から母

校や大学のクラブ活動の様子、東京と新潟の両校の交流等、新旧入り混じっての話題に、緊張気味だった在校生も次第に打ち解け懇親会は大いに盛り上がりました。

三戸敦史・79回

埼玉県人会

平成25年11月7日(木)に、「第14回埼玉県人会」が池袋で開催されました。今年は40名近い大変多くの方に参加していただきました。これは校友会から学生部にお願ひして、埼玉県在住の学生に案内状を配

り、校内の各学年掲示板に開催案内を出していただいた成果だと思います。これからも県校友会が発展するために、校友会本部のご協力をよろしく願ひいたします。

岩淵法一・71回



千葉県人会



広島県人会



埼玉県人会

診療室での物語

カルテ No.4

心のかわきを感じる時



新潟病院 口腔外科
口のかわき治療外来

戸谷収二(81回)

総合診療科から「口のかわき治療外来」に紹介されてきた64歳の女性。「口がかわいてしかたがない。早く診てほしいの。」受付担当者に早く診療室に案内するよう頼んでいる。診療室のユニットに案内され座るなり足を組み、臨床実習生Aによるバイタルの測定を受けていた。初診担当医Bが自己紹介で名前を言い終わると、ユニットから上半身をぐいっと

乗り出して担当医Bの方に向いた。そしていきなり自分の症状を詳細記載したメモを持ってマシンガントークのごとく話し出した。担当医Bは引き気味に、30分くらい耐えて聞いていたら、少し落ち着いたようで「先生、よく診てくださいね！」と強い口調で言い放った。

担当医Bによる口腔内診査の結果、舌粘膜は重度乾燥を認め、唾液分泌量の測定(サクソテスト)では、0.41g/2分(2.00g以下で低下)と明らかな口腔乾燥症(ドライマウス)であった。相談を受けた私は自己免疫疾患であるシェーグレン症候群を疑いながら精査を進めるよう指示した。担当医Bは「口のかわきと関連ある病気があるかもしれないので、調べていきましょう。」と説明し、唾液腺マッサージ、含嗽剤、口腔保湿剤による「ドライマウス初期治療」で治療を開始した。その後の検査結果から、シェーグレン症候群と確定した。担当医Bは

「難病であるが命には直接影響する病気ではありません。かかりつけ内科の先生と相談しながら、口のかわきに対しては唾液分泌を促す薬を中心に治療しましょう。」と説明した。

1か月後の診察日。担当医Bと私で診察を行った。唾液量の増加を認めたが、顔貌が無表情で活気がみられなかった。「どうしたのですか？ 元気がないようですが？」と尋ねると、しばらくして力のない声で話し始めた。「5年前、主人が脳梗塞で倒れ、要介護状態で大変だったの。でも、昨年その主人が亡くなって一段落した矢先に口がかわき、さらにシェーグレン症候群という難病と診断されて…。一生治らない病気と思うとつらく不安で胸が苦しくてなにもやる気にならない。」と、一方向を見つめて無表情で話した。

口のかわきだけでなく「心のかわき」も…と感じた。すぐに、かかりつけの内科に紹介した。うつ病の診断であった。振り返っ

てみると、初診時の医療面接や受診時の言動や態度が「心のかわき」を知らせる情報であったと思われた。その後は細心の注意をして診察を継続した。

半年後、内科での治療効果により精神状態は安定した。口のかわきも軽快したので、内科に継続処方を依頼して当外来での診療は終了となった。3か月後、患者さんから担当医Bあてに手紙が届いた。「当時は大変失礼な態度をしました。自分でもどうしていいかわからなかったの…。でも先生方の丁寧でやさしい対応に少しずつ気持ち楽になりました。大変感謝しています。ありがとうございます。」

私たちの歯科診療で口のかわきを訴える患者さんは大勢いるが、「心のかわき」を訴えることはない。そのため、患者さんとのコミュニケーションを大事にし、患者背景などの診療に必要な情報収集をすることで「心のかわき」を見逃さないよう心がける必要がある。